

# 1. 今後の博物館の在り方、今後の博物館振興方策の方向性

## 【論点1】 博物館における展示の方向性

新型コロナウイルスとの共生時代（ポストコロナ時代）において、博物館における展示の在り方をどのように考えるか。

- ・ 館内展示（リアル）のみならず、オンライン等を活用した展示（バーチャル）の活用
    - ①新たな鑑賞機会の提供、②緊急事態対応、③地域教育・学校教育への活用、④収益力強化への寄与、⑤国際交流への寄与、⑥学芸員実習等への活用 等も考えられるか。
  - ・ 新型コロナウイルスの感染のみならず、不測の事態を備えた展示の多様化の促進
- ※オンライン配信等のバーチャル展示について、現時点での良好事例を共有し周知することが有効

## 【論点2】 博物館の収益構造の強化方策

多様な博物館活動を実現するために、ブロックバスターのみに依存しない、多様な収益構造を構築することが必要ではないか。

- ・ 新たな収益形態を確保するための取組の推進
  - 例：企業との連携、富裕層の取り込み
  - ※コロナ禍の影響を受けたインバウンド需要の急激な減少を受け、国内需要の掘り起こしにも目を向け、あらゆる来館者層を取り込む工夫が必要ではないか。
- ・ 寄附等の増加を図るための取組の推進
  - 例：ガバメント・クラウドファンディング等の活用、周知広報の強化 等
  - ※館独自の返礼、広報・周知方法を工夫すべきではないか

## 【論点3】 教育資源としての博物館の活用

ポストコロナ時代における教育へのICT活用の機運の高まりをとらえ、博物館が実施するオンライン展示等をより一層教育資源や地域連携のツールとして活用していくことが求められるのではないか。